

日々の

暮らしに

香川芳子 女子栄養大学学長

え／目黒雅也



麦踏みの思い出

北国では雪景色ですが、畑で麦踏みをした経験があります。早春、芽を伸ばした麦を踏みつけて霜柱で浮き上がった土を押さえ、麦の根張りを促す農作業です。終戦後に疎開した埼玉県浦和の農場での思い出ですが、収穫し、脱穀した小麦は近くの製粉所で粉にしてもらい、パン屋さんに頼んでパンを焼いてもらいました。

畑で小麦や芋、野菜を栽培し、鶏ややぎも飼っていましたから、卵も乳もありました。飲みきれない乳は弟たちが近所に届けていました。林の下草や畑の雑草、さつま芋のつるや小麦のふすまはやぎ

の餌になり、鶏ややぎの糞は堆肥になります。自然の営みが循環する自給自足の生活は家族のおなかを満たしてくれました。そして食糧難を乗り越えました。敷地内には食糧庫が堅穴式に掘ってあり、はしごを降りると横穴がのび、さつま芋などが蓄えてありました。土の中は温度が一定ですから立派な自然の保管庫。代々その土地で生きる人々の知恵とはすばらしいと感心したものです。農業経験のない私たちが導いてくれたのは近所の農家です。作物の栽培にも家畜の飼育にも自然のすべてが生かされ、学ぶことばかりでした。